

## インタープリターズ・第82回 バイブル

教養学部附属教養教育高度化機構 定松 淳  
科学技術インタープリター養成部門 特任講師

### 事業仕分け再訪

3月の末に、インタープリター8期生のうち5名が修了論文を提出し、プログラムを修了した。8期生といえば、昨年度末の2013年2月に同行した研修旅行が思い深い。研修旅行は、プログラムの必修授業のひとつである、黒田玲子先生の「科学技術インタープリター論Ⅰ」の一環として毎年行われている。8期生は、理化学研究所のスパコン「京」(兵庫県神戸市)と大型放射光施設「SPRING8」、「SACLA」(兵庫県佐用郡)を訪問した。

この研修旅行の特徴は、こちらでも訪問先のことについて調査して発表を行い、あちらのスタッフとディスカッションを行う点にある。インプリの学生は多様な分野から集まっているので、色々な発表があって面白い。考古学専攻の学生が、風土記にさかのぼって佐用郡の歴史を紹介してくれたのは、びっくりだった。一方で、この両施設は民主党政権下で事業仕分けの対象になった施設であったため、その点を取り上げた発表では議論が白熱した。

マスコミでは「世界一」かどうかが目された「京」だが、事業仕分けの議事録を調べると、理研側も経済効果を算出していた。「なぜそれを提示しなかったんですか?」「数字が一人歩きするのも危ないよ」「だったらどういう基準で決めていくのがいいと思いますか?」。これに対してスタッフの一人が「諸外国ではこの分野にこれくらい投資している、というやり方がいいんじゃないか」と答えた。この回答に学生の一部が非常にがっかりした表情をしたのが印象に残っている。

これはどちらにも理がある。もっと主体性をもって決めようよ、という学生の心情も理解できる。と同時に、トップダウンの意思決定が難しい日本において「外の神に頼る」という意思決定の仕方はよく採用される形でもあるからだ。後者を全否定しては組織は動かないし、かといって前者を全面的に捨て去ってしまうのは長いものに巻かれる式の意味決定しかできない。

両者をすりあわせながら、新しいものをどれだけ入れ込んでゆけるかが日本社会の課題だろう。そのためには建前とはちがう、日本社会の作動の仕方をもっと明るみに出し、かつ解明してゆく必要がある。インプリには社会科学系の参加も強く求められている、その思いを改めて強くした体験だった。

科学技術インタープリター養成プログラム  
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>

## 救援・復興支援室 より

第36回

本学の救援・復興支援室の最近の状況や、遠野分室の日々の活動の様子をお届けします

### 救援・復興支援室の活動(5月～6月)

5月～6月 福島県相馬市「寺子屋」学習支援ボランティア

### ザシキワラシの日常

本部企画課係長(遠野分室勤務)



文：佐藤 克憲

4月8日、遠野市内中学校統合に伴い廃校となった校舎を活用した「遠野みらい創りカレッジ」のオープニング・イベントが、同校舎において行われました。この事業は遠野市と民間企業の連携事業で、東日本大震災直後から岩手県で被災地支援活動を行ってきた当該企業と被災地への中継地点である遠野市との間に交流が生まれ、同市において社員研修のほか、一般参加者も募って被災地も含めた地域活性化策の検討を行ってきたところ、その検討の中から本カレッジの構想が出され、この度開校に至ったものです。

本学でも、全学組織「知の構造化センター」が昨夏、ハーバード大、オックスフォード大等有力大学を含む海外の学生と、本学学生約30名ずつ(本部学生は学部前期課程、同後期課程、大学院学生各々3分の1ずつ)の参加を得て初めて開催した「東大イノベーション・サマープログラム」(イノベーションを生み出す力と社会問題解決能力を養うことを目的に、演習・ワークショップを含むフィールドトリップを行うプログラム)におけるワークショップの会場として使用し、環境や使い勝手の良さから好評で、今夏も使用する予定となっています。

廃校とはいっても、下記写真のとおり古過ぎず温かみがあって、研修等を行うには大変よい施設だと思います。岩手県での被災地見学を含めた研修をお考えの学内関係者の皆様、是非とも利用をご検討ください。問合せ先は以下のとおりです。遠野市産業振興部連携交流課 ☎0198-62-2111 (遠野市役所代表)

今回もお読みいただき「オアリガトガンス!」



(左)開校イベントの様子。(右)建物内部(平成25年7月撮影)

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info_j.html)

Email : kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

内線 : 21750 (本部企画課)